



**第四章  
資料**



# アンケート用紙

令和3年3月10日

## 第31回東京都平和の日記念行事アンケート

本日の東京都平和の日記念行事について、アンケートにご協力ください。

■3月10日が東京都平和の日であることについて

- a. 知っていた      b. 知らなかった

■記念行事への参加回数について

- a. 初めて      b. 2～10回      c. 11～20回      d. 21回以上

■本日の記念行事について

1 「記念式典」についてご感想をお聞かせください。

- a. 大変良かった      b. 良かった      c. 普通      d. 悪い

(ご意見: \_\_\_\_\_ )

2 この行事を何でお知りになりましたか。

- a. 広報東京都      b. 東京都のホームページ      c. 知人から聞いて

d. その他 ( \_\_\_\_\_ )

■その他ご意見ご感想をお聞かせください。

[ \_\_\_\_\_ ]

お歳: \_\_\_\_\_ 代

お住まい: \_\_\_\_\_ 区・市・町・村

ご協力ありがとうございました。

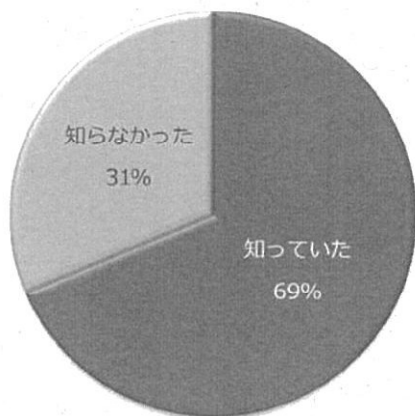
東京都

# アンケート集計結果

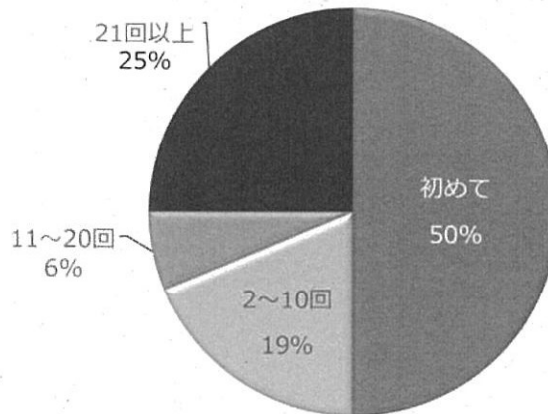


回答数：32

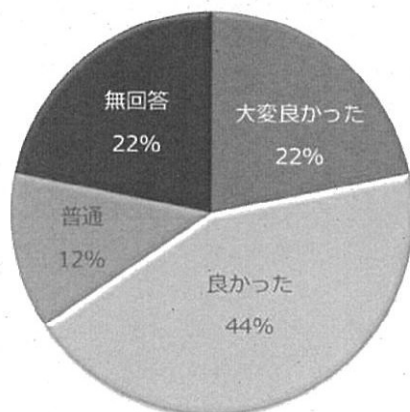
3月10日が東京都平和の日であることについて



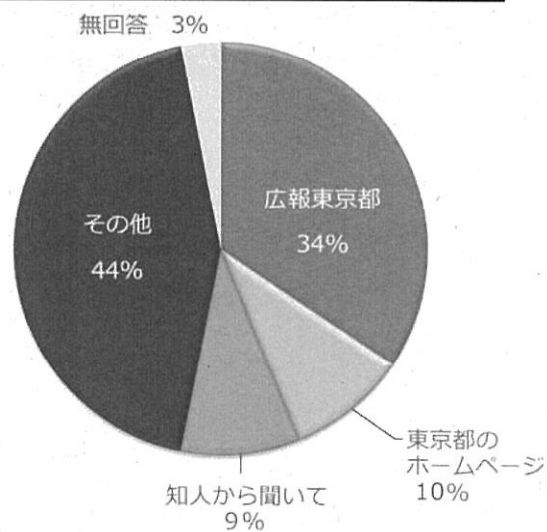
記念行事への参加回数について



「記念式典」についてご感想

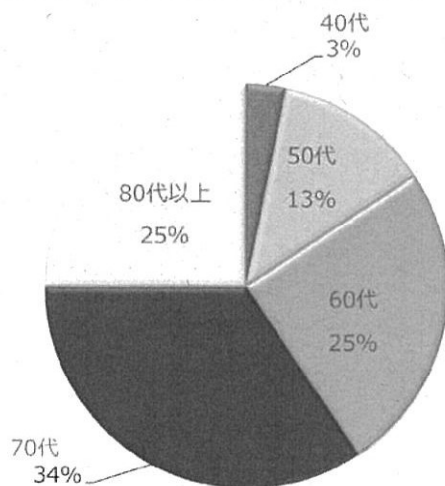


この行事を何でお知りになりましたか



その他の回答  
 ・葉書/招待状  
 ・遺族宛通知/遺族  
 ・自分が前々から知っていた  
 ・親族から

お歳



## アンケート集計結果（自由意見）

### 自由意見

#### 1. 「記念式典」についてご感想をお聞かせください

- コロナ禍で規模縮小なので仕方なかったと思います。
- 参加人数が異常に少ない。制限しすぎではないか？
- 感染対策がしっかりできていた。簡素で厳かでした。



#### ■その他意見、感想

- 次々と災害があり、かつて日本特にこの大都市でかつてこの様な大空襲があった事は、知らない国民そして知っている年代も少なくなり、淋しいやら時が過ぎて行く流れの早さを思い、不安定な世界の様子を見ていると忘れてはいけない事と改めて思いました。生ある限りお参ります。
- 被災者代表の高橋さんのスピーチが良かった。
- 慰霊堂に早く着きいつもとちがうのでとても迷いました。慰霊堂から都庁迄のバスは本当にありがたいです。
- 私のおじ・おばは、若くして亡くなりました。戦争の加害者でもなんでもない少年少女を焼きつくすのは非道です。都ももっと広報に力を入れて下さい。私がいなくなればもう忘れ去られてしまいます。
- コロナが終息して以前のような式典が行えることを切望。
- もっと広く平和の日を知らしめて欲しい。
- 東京空襲で南の空が赤くやかれて東京の空襲だと先輩に話され、私は親の顔、姿が骨もなくわからず77才になり参加することができた。良かった。
- 式典挙行に際し、小池都知事はじめ関係者のご尽力に感謝します。ありがとうございました。
- コロナ禍にておごそかなる式典で少々心のやすらぎを感じました。このあと昔孤児でさまよっていた本所の地を手を合わせて歩きます。
- コロナ禍でこのような立派な式典を準備していただき、感謝します。多くの職員の方が出迎えていただき、初めて参加しましたが驚きました。中学校に勤めていますが、本日14時に黙とうをすると職員室に板書されていました。全校生徒がすることでしょう。
- はじめての参加です。いつも心の中におまわりさせてもらいたいと思っていました。胸のつかえが取れた様でホッとしています。
- この記念式典出席でき良かったです。

## 東京都平和の日条例

平成二年七月二十日  
東京都条例第九十号

東京は、今や、世界の経済社会の発展を支える大都市としての地位を占めるに至った。これは、東京の地に住み、働いてきた人々の努力の賜物である。

しかし、東京の歴史には、幾多の惨禍が刻まれている。特に、多数の都民が犠牲となった第二次世界大戦の悲惨を我々は忘れることができない。

平和は、都民すべての願いである。

東京都は、平和国家日本の首都として、世界の都市と連携し、文化交流等の推進に努め、人々の相互理解に立脚した国際秩序の形成と恒久平和の実現に貢献する責務を深く認識し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、ここに、東京都平和の日を定める。

### (平和の日)

第一条 東京都平和の日は、三月十日とする。

### (記念行事)

第二条 東京都は、東京都平和の日に、平和の意義を確認し、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施する。

### (委任)

第三条 この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

## Tokyo Metropolitan Peace Day Ordinance

Tokyo has now become one of the major cities to support the development of the world economy and society. This result can be attributed to its residents, who have lived and worked diligently in Tokyo. However, Tokyo recorded many disasters in its history. Of these, we will never be able to forget tragedies experienced during World War II when many Tokyo residents fell victim.

Peace is the very wish of all of Tokyo's residents.

The Metropolis of Tokyo, as the capital of peaceful nation of Japan, has decided to promote cultural exchanges in cooperation with the cities of the world. Tokyo recognizes responsibility for devoting itself to forming an international order based on mutual understanding and achieving eternal peace. Tokyo takes an oath never to repeat the horrors of war. Therefore, the Metropolis of Tokyo does hereby enact the Tokyo Metropolitan Peace Day.

(The Peace Day)

Article 1 The Tokyo Metropolitan Peace Day shall be on March 10th.

(Commemorative events)

Article 2 In order to confirm the significance of peace and to promote peace-consciousness, the Metropolis of Tokyo will carry out commemorative events on the Tokyo Metropolitan Peace Day.

(Delegation)

Article 3 Necessary matters related to the enforcement of this ordinance shall be fixed by regulation.

Supplementary provision

This ordinance shall come into force from the day of its promulgation.

Promulgated July 20, 1990

Tokyo Metropolitan Ordinance No.90

## 東京都民平和アピール

一九四五年三月十日、五十年前の今日、東京は大空襲によって、いたるところ焼け野原と化し、一夜にして十万人のかけがえのない尊い命が失われま

した。同じく五十年前、広島と長崎の原子爆弾は、人類がまだかつて知らなかつた悲劇を地上に現出させました。

いかなる哀悼の言葉も意味を失ってしまうほど非情かつ残酷なもの、それが戦争のもたらすあらゆる惨禍であり災害であります。

そして半世紀がたちました。戦争を知らない人々が、都民の多数を占める時代がきました。東京の姿は一変しました。廃墟だったまちは、活動力にみちた大都市に変貌しました。それは、日本が平和のもとにあつたからこそ実現できたものでした。

世界の相互依存関係がかつてないほど緊密になり、互いの協力がますます必要とされる現在、私たちは世界全体の平和なくして、幸せで安全な暮らしを営むことはできません。

いま世界は、激動の中にあつて、大きな歴史の転換の時代を迎えています。民族や宗教の対立などに起因する悲惨な地域紛争、飢餓と貧困、難民と被災者、地球環境の破壊と悪化をはじめ、人々の穏やかで満ち足りた生活をほむ要因が、次から次に生じています。不信と対立を克服し、信頼と協調による新たな国際秩序を模索することは、地球全体にとって緊急な課題であり続

けています。国、民族、文化の違いをこえた取り組みが、今ほど求められている時はありません。

平和は、何ものにもまさつてすべての基礎をなす条件です。日本国憲法が基本理念とする恒久の平和は、私たちすべての願いであり、人類共通の目標です。

私たちは、軍縮と核兵器の廃絶を機会あるごとに強く訴え、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓います。日々の生活において、平和を脅かす問題に、毅然として立ち向かい、忍耐よく取り組むことを決意します。

一 私たちは、次代を担う子どもたちに、戦争の悲惨さと、それを防止することの大切さを、東京大空襲の体験などとともに語り伝えます。

一 私たちは、共に地上に生きるすべての人の人権を尊重し、差別を排し、思いやりと愛情をもつて、誇るに足る地域社会をつくり出します。

一 私たちは、日々のくらしを注意深く見つめ、豊かな水と緑の地球環境を守ります。

一 私たちは、地球社会の一員として、世界の人々と交流し、相互の信頼を深め、協力連帯して、人類の福祉の向上に努めます。

一 私たちは、過去の歴史をかえりみて、ともに手を携えて平和な世界をつくり、相ついでやつて来る新しい世代に引き継いでゆきます。

第五回東京都平和の日記念式典にあたり、私たちは、参加者の総意としてこのアピールを採択し、誓いも新たに、平和を心から願う気持ちと決意を、全世界の人々に訴えます。

一九九五年三月十日 東京都

## An Appeal for Peace by the Citizens of Tokyo

Fifty years ago today, on March 10<sup>th</sup> 1945 Tokyo was reduced to ashes and a hundred thousand precious lives were lost overnight due to a large-scale air raid.

The same year, the dropping of atomic bombs in Hiroshima and Nagasaki revealed a tragedy never previously known to human beings.

The nature of various horrors and disasters brought forth by war is so cruel that no words of condolence are enough.

Half a century has passed since then. Most of today's citizens of Tokyo don't know the war. The city of Tokyo underwent a tremendous change. Once in ruins, Tokyo is now a metropolis full of energy and spirits. This became possible only because Japan has been at peace for the past fifty years.

Today, when global interdependence is stronger than ever and cooperation increasingly necessary, we cannot seek a safe and happy life without world peace.

In the midst of turbulence, the world today is approaching an era of great change in history. Conflicts caused by antagonisms between different ethnic groups and religions, hunger and poverty, refugees and victims, deterioration and destruction of the environment—these are only a few of many factors in today's world which endanger people's calm and fulfilling lives. To overcome distrust and antagonism and to seek a new international order is an urgent agenda of the entire world. Never before was it necessary to deal with this agenda regardless of differences in nationality, ethnic background, and culture.

Peace is a basic requirement, more important than anything else. Lasting peace, the fundamental principle of the Constitution of Japan, is the wish of everyone of us and is also a common goal for all human beings.

We pledge to take every opportunity to advocate disarmament and the abolishment of nuclear weapons, and to never repeat the horrors of war. We are resolved to deal with problems which endanger peace in everyday life and to face them resolutely and patiently.

- We will tell our children, who are responsible for the next generation of the horrors of war and the importance of preventing it, along with the memories of the large-scale air raid of Tokyo.

- We will respect the human rights of all people living on the earth, fight against discrimination, and create, with much love and compassion, a community which we can be proud of.

- We will review our daily lives in order to preserve the world environment with rich water resources and greenery.

- We, as members of the global community, will develop amicable relationships with other people of the world, strengthen the mutual trust, and, with cooperation and solidarity, make efforts to enhance the well beings of mankind.

- We will reflect upon our past history and create a peaceful world for the next generation to cherish.

On the occasion of the 5<sup>th</sup> Peace Day Commemoration of Tokyo, we adopt this appeal by the consensus of all present, thereby conveying to the world the renewal of our sincere resolution to achieve peace.

March 10<sup>th</sup>, 1995